



「けなるい(うらやましい)町徳光」を目指して美化活動を展開

平地農業地域

とくみつちよう

ふくいし

徳光町集落資源保全隊（福井県福井市）

- 当地区では、混住化の進展等により、農業者のみで地域資源を継続的に守っていくことが困難となってきた。
- 自治体と一体となり、景観保全のための植栽活動やゴミ対策の徹底、地区内美化運動等の共同活動を通じた集落機能の活性化を目指している。
- 「けなるい町徳光」をキャッチフレーズに、「美しい環境をどのように守っていくか」という課題について、集落内で話し合い、身近な活動から始めることにした。地域内美化運動の一環として、地域住民が集落内水路に竹プランターによる植栽活動を実施。さらに、水路法面のカバープランツとしてシバザクラを植栽する活動へと発展。

【地区概要】

- ・取組面積 72ha（田72ha）
- ・資源量 開水路22.2km、農道7.4km
- ・主な構成員
農業者、自治会、農家組合、子供会、水土里ネット、親水施設整備事業委員会
- ・交付金 約6百万円（H29）

農地維持支払

資源向上支払（共同、長寿命化）

地域ぐるみの資源保全活動



幹線水路の草刈

幹線水路の清掃



地域内美化運動



身近な活動からの取組

— 手作り竹プランターの植栽 —



地区内の竹林から達した竹でプランターを制作し水路に設置する活動

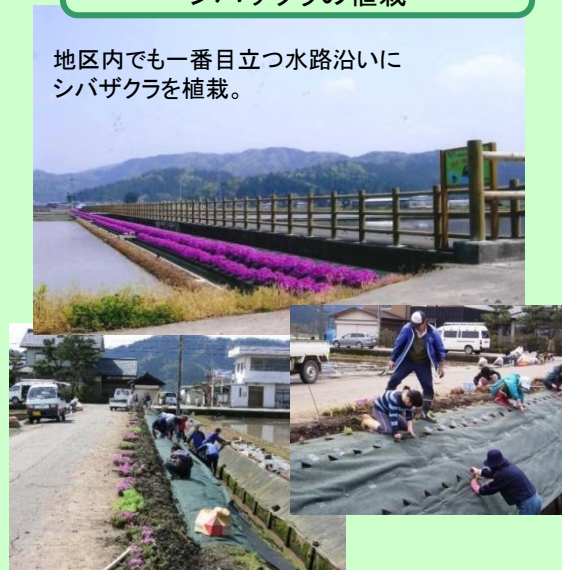


活動を続けて5年目には、地区内のプランターは55個から95個に増加。住宅近辺の活動ということもあり、農家・非農家が一体となり取り組んでいる。

活動の取組拡大に向けて

— シバザクラの植栽 —

地区内でも一番目立つ水路沿いにシバザクラを植栽。



- ・ 景観形成に加え畦の草刈り作業の省力化にもつながることから、専門家からの助言も受け、防草シートを併用したシバザクラの植栽を実施。
- ・ 防草シートの選定に当たっては、各地をまわり、スギナやチガヤに対する耐久性のあるシートを選定。
- ・ 「けなるい(うらやましい)町徳光」をキャッチフレーズに、取組拡大に向けて活動を実施している。



砂丘地における防風林の保全管理

平地農業地域

よのづ

さかいし

米納津農地を守る会（福井県坂井市）

- 福井県北部の三里浜砂丘地に位置し、畑地帯総合整備事業により整備された畑で、施設野菜や露地野菜等が栽培されている。
- 砂丘地であることから、水路等への飛砂対策が地域の課題であり、水路の泥上げ等について、多面的機能支払交付金を活用して取り組んでいる。
- また、本地区においては、農地の表土の飛散や作物の風害の緩和のため、防風林の存在が重要であり、ほ場に隣接する防風林の管理についても本交付金を活用している。

【地区概要】

- ・取組面積 96ha(田10ha、畑 86ha)
- ・資源量 開水路11.3km、農道8.7km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、老人会、農家組長会、女性部、子供会、その他
- ・交付金 約3百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

地域の状況



砂丘地の様子

- 砂丘地であることから、らっきょう、大根、メロン、スイカ、かんしょ等の水はけが良く砂地に適した作物が栽培。
- 砂地であることから、農地の風食を守る防風林は、地域の重要な施設となっているが、近年、松食い虫による「マツ枯れ」の被害が増加。

主な取組内容



水路の泥上げ

- 水路や農道側溝に、砂丘地からの飛砂が堆積し、水路の通水機能が低下。
- このため、多面的機能支払交付金を活用し、地域共同の活動により、水路の泥上げを実施。



防風林の保全管理

- ほ場に隣接する防風林について、多面的機能支払交付金を活用し、枝払いや下草刈り等を実施。
- また、これら防風林への松食い虫による被害を軽減するため、被害木の調査、伐採、搬出、焼却、防除薬散布等を実施。



担い手の負担軽減により農地集積が進んだ事例

中間農業地域

みやがわ おぼまし
(一社) 宮川グリーンネットワーク (福井県小浜市)

- 本地域は、福井県小浜市の東端に位置し、平成9年から大区画化圃場整備を行い、農地の利用集積を進め、4つの生産組織を中心に営農を展開。
- 農業者の高齢化等により、水路等の維持管理の負担増加などから、生産組織の規模拡大が困難な状況であった。このため、地域の共同活動で水路等の維持管理を行う体制を整備。
- これにより、生産組織の水路等の維持管理に係る作業時間が年間約27時間/ha軽減。景観作物として栽培したひまわりを緑肥化し、特別栽培米の生産なども開始。
- 平成27年度からは、4つの生産組織が合併し、株式会社化。特別栽培米の規模拡大や小学校、農家レストランとの契約販売、園芸作物の導入など、多角的経営を展開している。

【地区概要】

- ・取組面積 194ha (田194ha)
- ・資源量
開水路 35.6km、管水路 23.6km
農道 38.1km、ため池 7箇所
- ・主な構成員
農業者、町内会、生産組織、
青年会、小学校PTA、土地改良区
- ・交付金 約17百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

地域の営農状況

- 大区画化圃場整備により、汎用化、担い手へ農地利用集積を実施。直播栽培や大型機械の導入で低コスト農業を促進。
- 一方、高齢化等により農業者が減少し、水路、農道等の維持管理、鳥獣害対策等が課題となり、更なる規模拡大が困難。



取組内容

- 担い手の負担軽減のため、水路の泥上げ・草刈り等の維持管理を非農業者を含む地域ぐるみで行う体制を整備。
- また、農地を保全し、利用集積が可能となるよう、鳥獣害対策も地域共同で実施し、活動を強化。
- 景観作物として栽培を始めたひまわりを特別栽培米の緑肥として活用し、農産物のブランド化を推進。



化学肥料を使わず、ひまわりを土に置き込み丁寧に育てた特別栽培米のひまわり米です。

ひまわり緑肥による特別栽培米



獣害柵の補修管理

取組の効果

【生産組織の維持管理負担の軽減】

労働時間: 27時間/ha/年
維持管理コスト: 2万円/ha/年

【生産組織の農地利用集積】

集積率・集積面積
H18年度: 48%・89ha

↓
H28年度: 74%・143ha

【特別栽培米の取組拡大等】

・特別栽培米の面積の増加、小学校農家レストランとの契約販売、トマト等の園芸作物の導入など、多角的経営を展開。



農家レストランとの契約販売



ふるさと納税の商品化



維持管理費の低減の取組

平地農業地域

おうちがた

邑知潟水土里ネットワーク

はくいし

ほうだつしみずちよう

なかのとまち

(石川県羽咋市、羽咋郡宝達志水町、鹿島郡中能登町)

- 本地域は、石川県の能登半島基部に位置する水田地帯。ほ場整備後30年以上が経過し、水路の不等沈下等による用水機能の低下や水路・農地の法面崩壊が多くみられる。
- このため、用水路の布設替え工事や水路・法面の補強対策、法面への防草シートの敷設等を実施。これにより、用排水路の応急的な補強等の労力が軽減され、維持管理に要する負担が軽減されている。
- 併せて、活動組織を広域化することにより、担い手への農地利用集積の進展や、地域住民の共同活動への参加者も増えている。

【地区概要】

- ・取組面積 2,112ha (田2,112ha)
- ・資源量
開水路 647.8km、パイプライン 83.6km、
農道 299km、ため池 91箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、JA 等
- ・交付金 99百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- ほ場整備後30年以上が経過している水田地帯。水路は不等沈下等により漏水が多発。用水機能が低下し、水量不足が発生。
- 農地法面の崩壊も多く、水田からの漏水も発生。毎年、応急措置として、水路や農地法面の土嚢積みに、多くの労力が必要。
- また、法面の草刈りの負担が大きく、部分的に除草剤を散布。



老朽化している用水路

取組内容

- 建設工事の経験者を中心に、老朽化した水路22,200mの布設替えを自主施工により実施。合わせて、水路・農地法面の補強対策を実施。
- 急勾配な水路法面など、危険な箇所を中心に、草刈りの負担軽減のため、防草シートを布設。



自主施工による水路の布設替え

取組の効果

【水路の布設替え】

- ・法面の土嚢積み作業の軽減
約630人/年

【防草シートの布設】

- ・草刈り労力の軽減
約80人/年

【維持管理負担軽減による集積率の向上】

- ・H24年度:52% ⇒ H27年度:60%

- 水路等の保全活動に対する理解が醸成され、共同活動の参加者が増加。

H24年度 H26年度

農業者 : 418人	555人
非農業者 : 234人	466人



地域住民による草刈り